

日本海

ラパスの便り

鳥取大学国際教育カリキュラム

~ 3 ~

メキシコ・プログラムの目玉であるフィールドワークが九月末からスタートし、二つのグループに分かれて日本と比較して現地文化を理解する「メキシコの伝統と文化」の調査実習を行った。

A班は一般市民や小学生を対象に人生観や生きがいについて調査した。子供たちに将来の夢や家族、地域について尋ねると、日本と異なる濃密な人間関係が根づいていた。放送局でのインタビュー



ラパス市内の中学校で聞き取り調査をする学生

本と同じく地元の年配の人々は、治安の悪化や自然や景観の変化に不満を持っていた。また外国から避寒のため

高齢者が多く訪れる地域なのだが、バリアフリーなどの対応に遅れがあった。私たちはこれらの結果をまとめて、市や関連部局に近く提出する予定にしている。

実習最終日の金曜夜、調査結果をまとめて市民向けの公開報告会を市の文化センターで行う予定だったが、ハリケーンのため中止となった。残念だが、これもまたメキシコらしいと感じた。この調査実習を通して、私は国際交流の必要だと思ふ。

国際交流のあり方考える

(鳥取大学工学部4年・蒲原公嗣)